



くらしの活動大会

大会テーマは、**つながる・ひろがる・願いがかなう 共感の輪**

JAは7月1日、本店総合営農指導拠点センターでくらしの活動大会を開きました。

花巻・北上・西和賀・遠野の各地域から組合員や役員など総勢600人が集まり、くらしの活動に理解を深めました。4つの団体の実践発表や、参加者全員で体を動かした榎フィットネスビジネス研究所の長野茂代表取締役による「日常ながら運動で健康づくり」のほか、会場には、くらしの活動に取り組むグループの活動紹介や作品展示がスラリと並び、手作り加工品やハンドメイド商品などの販売も行いました。

会場の全てが、人と人が繋がって生みだし、広がりをもせた活動です。大会は、活動を展開していく上で参考となるヒントや活力で溢れ、参加者は、仲間や地域と共に活動していくことの素晴らしさを実感しました。

明日から始めよう

小さな活動でも明日から始められることがあります。心に浮かんだ思いを行動に移すと、さまざまな工夫やアイデアが生み出されます。その活動や思いは心に秘めたままにせず、広く発信し、次世代や他地域の方々に繋いでください。ひとつの活動、ひとつの思いが周囲に新たなきっかけを与え、それが広がることで、共感の輪が生まれます。

未来の地域農業の「あるべき姿」と「幸せ」を想像し、そのために今何をすべきかを考え、JAとともに一歩を踏み出しましょう。

組合員と地域とJAがひとつになって

JAは、組合員一人一人の課題を協同の力で解決していく組織です。組合員や住民が抱える問題は地域の中で生じており、課題解決のためには組合員や地域の皆さんにとって一番身近な存在である支店をよりどころにしてください。JAは、支店を拠点として活動を展開し、さまざまな問題に真正面から向き合い、共に歩み解決します。また、事業支援だけでなく職員も共に盛り上げます。

地域と農業を、次の世代に伝え残していくために繋がり、を大切に、地域の明るい未来に向けて共に展開していきましょう。

実践発表4

花巻農業女子、はじまりました

農花アグリヴィリーノ
小原 喜代美
川村 姫子
中根 多栄子



花巻市では、新たな事へのチャレンジやステップアップを目指す女性を応援する「花巻農業女子プロジェクト」を展開しており、そのひとつとして昨年「農花アグリヴィリーノ」が結成されました。



農花アグリヴィリーノは、花巻市農政課と地域おこし協力隊、市内の女性農業者などが集まり、何がしたいのか何をすべきか、活動の目的などを皆で話し合い、一から作り上げました。活動は月1回のミーティングで決め、登録している約20人が自由に参加しています。

グループ名は「農業」、「花巻」の頭をとり「農花」、農業を意味する「アグリ」、宮沢賢治が使用したエスペラント語で「女性」を意味する「ヴィリーノ」を結びつけたもの。

新規メンバー募集中!



昨年度は、商品開発の講習会や市内加工工場を巡る視察研修、野菜栽培相談会やハンドケア講習会、東京での岩手移住イベントに参加...など活発な活動を展開。

今年度は、土澤アートクラフトフェア(東和町土沢)、どてびっくり市(上町)に出店。今後も各種イベントでの販売のほか、研修会や商品開発講習会、飲食店などの異業種交流会も開く予定。

実践発表3

地産地消活動と産直を夢にのせて

沿岸産直部会
佐々木 良子



東日本大震災後、沿岸地域の生産者は農業を諦めず、震災から3年後の平成26年2月に沿岸産直部会を立ち上げました。しかし、販売場所は無く、母ちゃんハウスだあすこ沿岸店オープンまでの2年は通年出荷用の作物栽培に取り組みながら、仮設住宅をまわる移動販売や仮設店舗での販売、片道2時間かけ花巻市の母ちゃんハウスだあすこへ出荷を続けました。



震災後は臨時大槌支店と仮設店舗「結ゆい」で販売していた(左)仮設住宅をまわる移動販売。震災直後から今も継続しており、好評を得ている(右)

現在は園芸相談会や研修会を開き、珍しい作物などを組み合わせた少量多品目栽培で、通年の充実した陳列を目指し奮闘中。研修会後は会員同士で苗のやり取りや、情報交換を行っています。



笑顔を見せる平成28年度～29年度の沿岸産直部会の役員

周年出荷への取り組みのひとつ「冬キャベツ」の収穫(左)と店舗に並ぶ様子(上)

実践発表2

牛を追いつつ元気に明るく前向きに

女性部北上地域支部西部支部／ビーフレディースきたかみ
千葉 洋子



私が所属する女性部北上地域支部西部支部は103名。料理講習会、健康講座、手芸講習会、研修旅行など盛りだくさんの活動を楽しんでいます。在籍して約40年、活動を通し、先輩たちのくらしを彩る知恵や工夫、仲間とおしゃべり...とても楽しいひと時を過ごしています。



共に活動し、道ばたなどで出会った時に声を掛け合える仲間の存在がここで暮らしていく楽しさや喜び、そして自信に繋がっていきました。

結婚15年目に、農作業事故でこの世を去った夫、二人の結婚生活が紡いできた「牛飼いの夢」を引き継ぎ、生きる決意をしました。

不安な毎日の中で得た答えは「他人様に負けても、自分には負けられない」。「女であることに甘えず、女であることを忘れず」「自分を見失わず、自分らしく生きる」ということでした。これらが社会に一歩踏み出す勇気となり、仲間たちと研鑽する今を作りました。



平成13年に当時の北上市農協肉牛部会女性部で立ち上げた「ビーフレディースきたかみ」。仲間とともに、地元野菜や牛肉に合うドレッシングの研究・製作・販売、牛スネ肉を用いた家庭料理コンクール、普及しにくい部位で水煮加工品作りなど、牛飼いの女子たちは、きたかみ牛のPRや、販路・消費拡大に向けて活発な活動を展開中!

実践発表1

食べる人・作る人が輝く未来を目指して

若手りんご生産者グループ
宇津宮 邦昭



私たちは平成26年に結成し、果樹部会の20代～40代のりんご生産者20人で活動しています。

県内外でりんごのPRや販売促進、地元保育園児や小学生への食育活動を活発に行っています。また、栽培技術向上に向けて、研修会への参加や会員全員のは場視視察で情報交換や切磋琢磨し合い、昨年のJA全農いわて主催のコンテストでは県で優秀賞を獲得しました。さまざまな活動はマスコミに取り上げられ、りんご産地のPRになっています。ほかにも、地球温暖化に対応する新たな樹種として桃に注目し、先進地研修で栽培法などを学んでいます。



収穫体験や出前授業では、「地元で世界最高品質のおいしいりんごがあり、それを作る農家がいる」という事を伝える。来年はその出前授業をさらに進化させるべく、メンバーが出演し1年間のりんご栽培の動画を制作中。

我々の存在やりんごの魅力を広げるための、インパクトのある登録「THE RINGOSTAR」が決定! 決まったら即行動! 朝4時に集合しポスター撮影!



管内の栽培環境に適した高品質で有利販売できる「ふじの有望系統」を見出す試験栽培

先輩生産者が作ってくれた基盤があるから活動ができるという感謝の気持ちを忘れず、今後も積極的な活動を展開します。そして、次世代へりんご作りの魅力を伝えていきます。